

県立新発田病院跡地活用市民検討委員会（第1回）会議録

と き 平成20年5月22日（木） 午後7時から9時30分まで
ところ 市本庁舎3階応接室

1 開会

2 委嘱状交付

3 新発田市長あいさつ

4 市民検討委員会会長あいさつ

（馬場会長）

一昨年、まちづくり基本条例が制定された。後日、燕市の職員の方がお伺いに来られるのだが、要件は「市民参画」の先進自治体である新発田市からお話を聞き、相談に来られるとのこと。

今回の県立新発田病院跡地の検討は、まさしくその「市民参画」のメカニズムの実践であると認識している。

今ほど市長あいさつにもあったが、当該地の活用方針とも言うべき市内部の検討内容（6つの基本テーマ）はかなり深く検討されていると感じている。従って、その内容に基づき、基礎テーマである「緑化」をメインに、それ以外の5つの付帯テーマ（「防災」、「行政サービス」、「歴史・文化」、「生涯学習」、「賑わい創出」）の全部あるいは幾つかをどのように組み合わせて構想を練るのかということが、本検討委員会の役割だと認識している。

市民検討委員会として一つにまとめるということが出来ないこともあると思うので、複数案で良いので、市民検討委員会の意見としてまとめあげ、市長へ提言をしていくわけだが、そうした検討・まとめのお手伝いを微力ながらしていけたらと考えている。皆さんの忌憚のないご意見を頂戴しながら、活発な議論を促進していきたい。

5 自己紹介

（事務局自己紹介）事務局職員自己紹介

（委員自己紹介）

（A委員）

商売柄、県外の方にも新発田の歴史・文化をお話できるようにと、現在、勉強を始めたところである。

経験も知識もない私が委員に選出されたということは、未来ある子供達の親を持つ代表としてであると認識しているので、そういった観点で意見を述べたい。

私が何より重要と思うのは“当該地がどういうところであったか”ということ。「温故知新」ということで、“城下町しばたの復活”を考えている。三階櫓を復元したが、一般内部見学が出来ないということも非常に残念であり、現状も由緒ある土地がそうした風情を損ねていることを残念に思っているので、この地区全体としての復元の必要性をひしひしと感じている。

私の考えとしては、これを機に門を復元し、さらには歴史資料館、ショッピングゾーン・飲食ゾーンを創設するなど含めた城下町の復活ということである。

堀の復元は大雨の際は調整池の役割もあるし、災害対応のトイレ等にポンプを設置して対応が可能と思われる。歴史資料館では近年のオンライン化もあることから、当該地を出発点として観光散策も可能になるものと思っている。飲食ゾーンについては地元の住民だけでなく、市外の方にも対応可能となるような質の高さが必要と思っている。ショッピングゾーンでは物語性のある商品を販売し、買い物袋は新発田共通の「城下町新発田」と印刷されたものを使用するなどの工夫により、全国に向けた宣伝効果もあるかと思う。

また、今回の検討委員会を通じてどんなイベントは出来るのか考えてみたい。

最後に、跡地の活用について市民に関心を持ってもらい、更なる賑わいを生み出すためにテレビや新聞に取り上げていただけるようにしたいと思っている。

まずは、旧赤谷中学校体育館に解体保存している武家屋敷の部材を検討委員会の皆様で見学に行くというところから始めても良いのかもと思っている。

私自身勉強しながらお役に立てればと思っている。

(B 委員)

この年齢になるまで新発田に育ててもらったお返しというか何か役立ちたいという気持ちと、百年の大計とも言うべきこのような大きな事業は他にないだろうという気持ちから参加させてもらったところである。

私の考えとしては、当該地周辺には市民文化会館、図書館などの施設が多く存在する。今や合併し、新発田は大きくなり、利用者も増えたと思う。従って、駐車場の確保を重要に思っている。

次に「緑化」について言えば「市民の森」のようなものが出来ないものかと考えている。市街地は特にご家庭の庭はそんなに広くないと思うが、そんな中「孫が生まれた。子供が生まれた。これを機会に記念樹を植えたい。」なんて思っても、そんな土地もないと思われる。そんな時に木を植えることの出来る(加治川桜を例にして)ような仕組みを用いて「市民の森」を作ることが出来たらいいなと考えてみたところである。

また、花をテーマにした整備が出来たらと考えている。

(C 委員)

大学で建築を勉強してきた。地元で貢献できることは何かを考えていた頃に募集の案内を見て参加させていただいた。よろしくお願ひしたい。

私が重要視しているのは未来に向けた整備構想であるということ。近年は本当に様々な価値観がある。そうした時代の中で、私の意見としては「もう少し待った方が良ひのかな。」とも思っている。最近では国から自治体への補助金等も動向の見通しがついていない。従って基本的には「緑化」の方向で、お金を掛けない方向で検討すべきと思っっている。整備費だけでなく、公園の管理運営に至るまでお金の掛からない方法を考えていけたらと思っっている。

(D 委員)

私は強いて言えば「歴史・文化」に興味を抱いている。そんなことから当該地は旧二の丸のほほ 1 / 3 に位置していると認識している。

私の意見だが、新発田というのは誰がなんと言おうとも城下町であるということ、このことは事実であり、変わらない。そのことを第一に考えていかないと、この病院跡地の活用計画というものは、まるっきり陳腐なものが出来てしまうと考へている。当該地の後ろには石垣、忠実に復元した三階櫓などがある。これらは日本にも余りなく、日本海側で現存の建物を持っている城下町は6つしかなく、大変な価値を有しており、そういった価値をお気づきでない市民の方も数多くいるようなので、この市民検討委員会においても“城下町である”ということをも第一に考へていきたい。

具体的には大手中の門、土塁、武家屋敷といった復元、歴史資料館(新発田藩政資料館)お休み処、食事する所、土産店、大型バスの駐車場などの整備が必要と思っうが、それらを一箇所にまとめることによって地元の人も来訪者も学び、見て楽しむことが出来るようになるのではないかと考へている。

また、「緑化」も大変良ひと思っっている。

(E 委員)

私は新発田生まれではなく、色々なところを転々として、2年前に新発田に来た。最初にこの街に来て思っしたのは祖父、祖母がもともと新発田にいたので、夏休みに来た時にはお城の周りが散歩の経路であったりしたが、以降年々開発により変わっていく新発田を見るのを寂しく感じていた。三階櫓も復元されたが、落成記念ばかりが眼を引いて、それ以外の古き良きものが失われていくことに気付かないことが不思議であった。現在は幾つかある良ひ資源がどれも単品で連続性がなくもったいないと感じている。

表門にしても何にしても古くからある資源を活かす企画にしたいと考へている。

それともう一つ、アヤメが当該地にないことについて疑問に思っっていた。自分の一番の目標としては「お城をアヤメで攻めたい」ということ。新発田に来てから個人的

にアヤメを植えて回っているが、お城の周りにもアヤメを植えていきたいと考えている。更に言えば、JAや農業高校など色々なところと連携して品種改良し新発田ブランドのアヤメを作るなど、出来れば新発田オリジナルのものを作ってあげたいと考えている。

(F委員)

今日も資料を拝見して「自分と考えている事が一緒だなあ」と思うことが市民意見として寄せられていると感じている。

私が新発田に帰って来て1年9か月経ったが、その前は静岡にいたのだが、静岡には駿府城があり、その近辺に県庁、市役所、裏には商店街があり、それらが上手に混在しており、素晴らしいと感じていた。

新発田には古い町名があると思うが、静岡にもある。旧町名を復活させるのは難しいとは思いますが、観光で城下町を売っていくなら、市民レベルでも誰もが古い町名を言えるほど新発田の歴史を語れるようにならなければいけないのではないかと考えている。

そのためにも、物産館や資料館が必要だと思っているが、沢山の意見を聞いて良い検討が出来たらと思っている。

(G委員)

城北町で商売をしている。仕事柄、まちなかの人達と接する機会があるが、まちなかが少し寂しいなと感じている。市外から来た方も同様に感じていると聞いている。

私の考えはまだまとまっていないが、委員の皆様の意見を聞きながら、商業者の立場として意見を言えたらと考えている。

それから跡地以外にも7号線から入った新発田紫雲寺線におけるお城に向かっての右折進入禁止について改善出来ないものかなど、法律で仕方ない部分はあるにせよ、市民意見ということで思うことは声を大にして言っていきたいと考えている。

(H委員)

市内で建設業を営んでいる。私は実体験を基にお話をしたい。

基本テーマ「緑化」と「防災」についてである。

私のお客様に大手外食チェーンがあるが、中越地震発生当日そのお客様のところ(小千谷)を回っている時に遭遇した光景は「戦争でも起きない限り二度と見ることはないだろう」というほどのものであった。

一方、中越沖地震では仮設住宅の建設に携わりお手伝いをさせてもらった。

その体験から何を言いたいのかというと、災害発生時に一番困ることはインフラであるということ。柏崎の場合は電気・ガス・水道業者がまちなかの用地を最初に一杯にしてしまう。仮設住宅を建てる前にそうした土地が一杯になり、なかなか再建の目

処が立たない。そういう事態を目の当たりにし、私は防災基地の必要性を痛感した。

通常は「緑化」公園化しておき、いざとなったら防災基地にする。これが私の考えである。

仮設住宅での生活は2年間。その間に自宅の片付けをしながら仕事もしなくては行けない。「用地はカルチャーセンターがあるじゃないか。五十公野にあるじゃないか。」と言いますが、車の混雑、破壊された家屋は鍵も掛からない状況となり不安が募ることからも考慮すると、市の中心部で考えられる用地は現状でカルチャーセンター周辺しかない。

長岡では火災が発生しなかった。阪神淡路では火災が発生した。雪が降ったらどうなったか。そういった条件が重なった場合あるいは駐車スペースにも場所をとられることを想定すると、とても十分とは言えない。

近くでそうした状況を見てきて、これから百年何も起きないとは言えない状況からも、防火水槽や合併処理槽付きトイレなど、将来を見越した市中心部での施設の必要性を検討すべきと考える。

是非、子供達、孫の代のことも踏まえた形で皆さんと意見交換をしたいと考えている。

(I 委員)

周囲の方から幾つかお話を聞いてきたが、「堀部安兵衛の資料館が欲しい。」とか「市役所が出来るんでしょ？」などの声を耳にしてきた。若い人は「市役所なら子供を連れていけるような市役所を。」であるとか「駐車場を広くして欲しい。」との意見もあった。

そんな中、私の少しずつ固まってきた考えは“本当に必要なものを造らなければ意味がない”ということ。そう思った時に市役所は外せないと考えている。

先ほど他の委員さんからもお話があったが、災害時には司令塔が必要であるため、市役所は今のままでは心配であるし、移転するなら当該地は最適な場所であると考えている。

イメージではホールが広々としており、お城を眺めることのできる簡素で景観を損ねない市役所である。更に言えば郷土の作家の作品を飾ることの出来るような機能を備えた市役所を思い描いている。人が集まる施設としての市役所であれば良いと思う。

それから、「駐車場が必要」との意見もあるが、果たして駐車場は何台分あれば足りるのか不明である。発想の転換ではないが、駐車場を敢えて設けず「ここは歩く場所」に出来れば良いと考えている。というのも、新発田には自転車で用が足せるコンパクトさがある。市外の方から「2時間で観光地を見て回れるから、新潟から来て半日で新発田を楽しむことが出来る」という事を聞いたことがある。そうしたコンパクトさを活かした「駐車場が必要」という考え方と反対の見地での議論も出来たら良いと考えている。

(J 委員)

まず当該地について最初に思ったことは、旧県立新発田病院がなくなることで「あつ、つながるな」という印象を受けたことである。新発田城、図書館、市役所、カトリック教会、商店街、寺町、酒造会社、足軽長屋、清水園、諏訪神社、そして駅等々…。これは活用していくべきと感じている。

先ほどから委員の方も「歴史」のことをお話されているが、歴史を大事にしていくことは本当に大事なこととは思う。だからこそ、歴史を復元する、懐かしむだけではなくて、今生きている私たちが活かしていけるような展示の仕方をしていけたら良い、あるいは古いものと現代のものを組み合わせる、そういったものをしていけたら良いと感じている。

また、私自身まだまだ勉強不足だが、新発田の文化や習慣が学習できる場があっても良いかも知れないとも考えている。

歴史を余り重要視し過ぎるのもどうかと思うので、現代との調和を考慮しながら検討していけたらと考えている。

緑も重要。回遊性があって色々な角度から当該地の全体を見渡せることが出来る配置が良い。

出入口についても一箇所だけでなく、数箇所あり、それ毎に違ったシーンを見れると良い。

車も重要だが、公共交通の充実により他の場所で駐車した方を送迎できるような仕組みもあれば良いと思う。

そして、当該地だけではなく、まちづくり全体のことを考慮しなければならないとも思っている。恐らく、ひいては観光につながることもあろうかと思うので、まちなかのサイン（案内板）の在り方（路面の色を変える、町名の路面掲示など）、休憩所の配置、観光ボランティアの育成なども視野に入れて検討していけたらと思っている。

次世代に誇りを持って引き継いでいけるような計画を検討していきたい。

(K 委員)

まだ、考えが固まってはいるが、現在、避難所に指定されている学校等の耐震対策が急務であるという話を耳にすることからも、当該地については近年の地震等災害の備えとして、避難場所という観点で考えていくべきではないかと思っている。景観計画の決まりはあるが、小中学生が利用できる体育館であって美術品や趣味の作品も展示できるような施設など、一言で言えば市民の皆様が利用できる施設があると良いなあと漠然と思っていたところである。

今後、皆さんと一緒に意見交換をしていきたいと考えている。

(L 委員) 欠席

(M委員)

35年間、消防団員として活動してきた。そんな事から委員に指名されたと認識しているので、私はそうした観点から「防災」について意見を述べたいと思う。

新発田でも平成9年、安全都市宣言をし、自主防災組織を立ち上げたが、以後さっぱり各自治会とも取り組みが進んでおらず、組織率は全国的に見ても極めて低い状況にある。合併してもなお、低い組織率である。そうしたことから、防災意識を高めるためにも、市民防災センターのような施設を要望したい。

市民の防災教育の場ということで、防災啓発はもちろん、災害時発生の際には隣接公園と一体となった形で避難場所として、給食、救援活動の拠点としたい。対策本部も設置することになるので、そういったための会議室等の機能を果たすことの出来る施設の建設も在れば良いと考えている。山形にある防災学習館のようなものも良いと思っている。

(N委員)

私は平成8年、寺町・清水谷地区まちづくり協議会を設立し、現在、寺町を歴史ある通りとして枝垂れ桜を植えるなどして守っている。出来れば諏訪神社から立寄橋までを枝垂れ桜一色にしてしまった方が良いと思っている。

そしてもう一つ、観光ボランティアを立ち上げたが、他の委員の方もお話されたが、まちの誰もが案内をできるようなまち(金沢や会津若松)市職員をはじめ誰もが自分のまちを案内できるまちになるということは良いことだと思っている。観光ボランティアでは今まで35の先進地域を視察しており、そういったことを少しずつお話していきながら検討を進めていきたいと考えている。金沢では、なるべく駐車場を設けず、送迎等でまちにお金を落としてもらおう工夫をしているなど、色々お話していきたい。

私の考えとしては「お城を復元しても中身がないじゃないか。」との声を観光ボランティアをしている時に耳にすることが多いので、五十公野にある素晴らしい展示資料等を活かすことも含め、歴史資料館の建設をして欲しい。新発田市民の目に触れるだけでも素晴らしいことと考えている。

それから、武家屋敷も確かに委員の皆様と見に行くのも良いかと思っている。

6 事務局説明（当初「意見交換」予定の内容と順序変更）

（事務局説明 「県立新発田病院跡地活用計画庁内検討会報告書」）

（N委員）

庁内検討会報告書14頁では整備後イメージにおいて特別養護老人ホームがなくなった状態でのCGとなっている。これは移転を前提としていることを意味しているのか。

（塚野企画政策部長）

まだはっきりした協議は行なっていないが、市としては将来的には特別養護老人ホームのある土地も含め一体的に整備したいと考えているが、相手方にはしかるべき時期に協議の場を設けたいと考えている。

（E委員）

表門前の道路の使用方法変更（歩行者利用限定化）については可能なのか。

（塚野企画政策部長）

道路の利用については現在のところ受益者が存在するので、簡単に廃止道路にするというのは難しい。しかしながら、当該地は広大であり、敷地内にその道路に代わる機能があれば、散策路として活かしつつ、車の出入りは別ルートにするということは可能かと思う。ただし、利用者の利便性も慎重に考慮しなければならない。

（E委員）

自衛隊敷地内の工作物等の高さ制限についてはどうなっているのか。三階櫓等の背景が気になるのだが...

（諏訪景観まちづくり推進室長）

市景観計画では新発田城周辺区域における高さ制限は、歴史景観重要道路沿いで道路中心線から20mまでは10m以下、その他の敷地だと12m以下となっている。寺社や不特定多数の人にとって必要な公共の用に供する工作物等は適用除外になる。自衛隊においても同様というのが原則だが、樹木等で修景したり、建築物等の外観を周囲の歴史的景観と調和するものとする場合等で、市長が景観審議会の意見を聴いた上で認めるものについては、緩和も可能である。

（H委員）

一つ確認したい。検討委員会が議論するのは、木々一本一本の配置などでいうことではなく、ある程度の構想案、イメージを作成するところまでと理解しているが、それで良いか。

（塚野企画政策部長）

検討スケジュール説明時に再度触れるが、各基本テーマの組み合わせを踏まえながら

ある程度のイメージ的なものを中間報告という形で複数案、市へ提案をしていただきたいのが第一段階。その後に、市でそれらを参考としながら精査した上で1～2案に絞り込み皆さんに構想案を再度提示するので、少しイメージを深めたいご議論をしていただきたい。

(事務局説明 「検討スケジュールについて」)

(馬場会長)

今、説明をいただいた内容を再度確認の意味で私からお話すると、前半の5回の検討ではラフデザインとして6つの基本テーマの組み合わせを検討してみる。その後、会としてまとめた複数案を市へ提出し、市はそれらの案を財源等の関係から精査した上で1つに絞り込む。その後で今度は市が提示した整備構想案に対しての課題を後半ということで市民検討委員会において議論する。あるいは前半で思い描いていた案と齟齬が生じている箇所を指摘するなどするという2段階で検討を進めて欲しいと思う。

7 意見交換・質疑応答

(H委員)

第5回検討会の予定に「少なくとも5～10案」とあるが、1～2案では駄目なのか。その方が市としても検討しやすいのでは。

(塚野企画政策部長)

抽象的概念やイメージを検討していただく段階であることと、委員の皆様がそれぞれ6つの基本テーマの中で特に思い入れが強いものが1～2つつ程度お有りであるだろうとの想定の下で、1～2案に絞り込むのは容易でないだろうということから、そういう表現で記載させていただいた。

しかしながら、本数の問題でもないので、訂正させていただきたいと思う。

(D委員)

「庁内検討会報告書」6頁において各種計画がまとめられているが、当然この内容は遵守しなければならないと解釈して良いか。どんな良いことでもここに無いようなことは駄目なのか。

(塚野企画政策部長)

基本的にはそのとおりであるが、ある程度含みを持たせた形(幅を持たせた形)でのご提案をいただきたいと考えている。

(事務局説明 「次回検討委員会までの課題提出について」)

(馬場会長)

今回与えられた課題の目的としては、いきなり基本テーマの組み合わせを先行すると、議論の内容が最初から個別具体的に深入りし過ぎ、結果として基本テーマの組み合わせが多岐に渡り議論が集約されなくなる恐れがある。だからこそ、基本テーマ毎のメリット・デメリットについて委員会として共通認識を図る必要があるという意味で、まずは今回の課題に取り組んでいただきたい。

9 閉会